

児童の外遊び改善に関する一考察

ー 小学校休み時間における外遊びに関する アンケートの結果をもとに ー

A consideration on the improvement of elementary school students' outdoor play
ー Based on student feedback about outdoor play during break times ー

奥 野 暢 通・大 槻 和 貴
Masamichi OKUNO and Kazuki OTSUKI

I. 目的

小学校において体育は小学校学習指導要領^{1-①}の総則3に示されるように「学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。」とされている。しかしながら、小学校児童の外遊びの減少がみられる。大阪市で行われた児童の平日の外遊びの平均時間の調査では、昭和59年7月では、全体平均が93分であったのに対して、平成19年7月では、全体平均が87分であり小学校児童の外遊びの減少が認められている。その原因として、テレビゲームなどの室内遊び時間が増えたことによる外遊びやスポーツ活動時間の減少、空き地や生活道路などの子ども達の手軽な遊び場の減少、少子化や、習い事などによる仲間の減少などが挙げられている²⁾。文部科学省では外で運動する効果として、体力・運動能力の向上、健康的な体の育成、意欲的な心の育成、社会適応力の発達、認知的能力の発達などが期待できるとしている³⁾。

また、子どもを取り巻く環境の問題として、文部科学省⁴⁾は、以下のようなことを挙げている。

①子どもの生活全体の変化

科学技術の進展、経済の発展で生活が便利になったり、生活様式が変化するなど、子どもの生活全体が、歩いたり、外で遊んだりするなどの日常的な身体運動が減少する方向に変化したと考えられる。

②スポーツや外遊びに不可欠な要素（時間、空間、仲間）の減少

子どもが運動不足になった原因として、スポーツや外遊びに不可欠な要素である時間、空間、仲間の3つの減少が考えられる。

1) スポーツや外遊びの時間の減少

外遊びなど体を動かす時間が減少し、学校外の学習活動や室内遊びの時間にとって代わられていると考えられる。

2) スポーツや外遊びの空間の減少

都市化や自動車の普及は、子どもたちの手軽なスポーツや外遊びの場であった空き地や生活道路を奪ったため、子どもたちが自由に遊べないなどの問題があると考えられる。

3) スポーツや外遊びの仲間の減少

少子化が進み、兄弟姉妹の数が減って、スポーツや外遊びの仲間となる身近にいる子どもが減少した。また、学校外の学習活動などで子どもが忙しく、平日の放課後に遊びたくても、自由な時間が取れなかったり、友達と時間が合わないことで仲間がつくりにくいなどの問題があると考えられる。

③地域におけるスポーツ指導者の課題

地域におけるスポーツ指導者については、子どもの発達段階に応じた指導方法を心得ている指導者が少なく、いきなり技術的なことを教えたり、勝ちにこだわった指導をして、子どもがスポーツの楽しさを知ることなくやめていく場合もあり、スポーツ嫌いにつながると考えられる。また、女子のスポーツ活動時間が男子に比して少ない現状があると考えられる。

④学校における指導の問題

年齢が高い教員の中には児童の発達段階に応じた体育の指導に困難を感じたり、児童に体を動かす楽しさを感じさせることができる指導が必ずしも得意でない教員が存在するという状況がみられるなどである。事実、体育専科教員を配置している公立小学校数は、2013年度では3.38%⁵⁾であり、非常に少ない。著者らは必ずしも体育科の専科制を求める意思は無い。しかし、休み時間を含め体育は直接教諭と児童が接することのできる貴重な時間であると考えられる。そのため、体育の授業ならびに休み時間の教諭の児童との接し方を学校全体の問題として取り組む必要があると考える。

現在の子どもたちが小学校時代に外で元気に遊び、体や心が健やかに発達することが必要だと考えられる。そこで、外遊びが減少した原因を調べるための基礎的調査として1つの小学校を対象にアンケートを行い、その結果からどのような働きかけをすれば児童の外遊びが推進されるのかを導き出そうとした。

Ⅱ. 方法

1. 対象

〇町立〇小学校の全校児童を対象に付記1(中・高学年用)、付記2(低学年用)のアンケートを行った。なお、本アンケートは個人の特定はせず本研究以外では使用しないということを伝え行った。

2. アンケート実施時期

平成26年7月に実施した。

3. 内容

アンケートは低学年用と中・高学年用に分けた。低学年用はできるだけひらがなを多く用いた。また、中・高学年用のアンケートの質問(4)あなたは、1日にどのぐらい外で遊びますか。(近いと思う番号に○をつけましょう)は、低学年には回答が難しいと考え削除した。(それ以降の番号は繰り下げて集計した)

以下に示す質問番号はすべて中・高学年用のアンケートの質問番号である。

質問(1)、(2)は、今日の小学生で外で遊んだり体を動かすことが好きな児童はどのくらいなのか、現状を調べるために設定した項目である。

質問(3)は、外で遊んだり体を動かすことが好きではない原因を調べ、そこから、どうすれば好きになるのかを考えるために設定した項目である。

質問(4)は、まったく遊ばない児童の数を把握したり、どのくらいの時間であれば外遊びをするのかを把握するために設定した項目である。なお、外遊びをよくしていたり体を動かすことが好きな児童が①側に寄る選択肢と示すため、アンケート用紙の回答①～⑤を逆にして集計した。

質問(5)、(6)は、単純に中か外かどちらで遊ぶのが好きかを問い、その理由から中や外で遊ぶことの利点や欠点を把握するために設定した項目である。質問(5)についても質問(4)と同じく回答①～②を逆にして集計した。

質問(7)は、一番楽しかった外遊びを把握し、その遊びをもう一度行ってみれば外で遊ぶことが楽しいと思うことができ、外で遊ぶ児童も増えるのではないかと考え設定した項目である。

質問(8)、(9)は、外で遊ぶことは好きかを休み時間に限定して聞き、質問(1)、(2)と比べどう変化するかを調べるために設定した。休み時間に限定して質問したとき、(1)、(2)と違った結果が出れば、休み時間での外遊びが外遊びを推進したり妨げたりする何かしらの要因があると考え設定した。

質問(10)、(11)、(12)は、3つの休み時間での外遊びの頻度を調べることで、それぞれの休み時間ごとに、外遊びが多い要因、少ない要因を明らかにするために設定した項目である。

質問(13)、(14)は、児童が一番よく遊んでいる場所を調べ、人数が多かった場所や少なかった場所はどのようにしてそのような結果になったのか原因を調べるために設定した項目である。そこから、遊びやすい環境というのはどのようなものかを明らかにしようとした。

質問(15)は、今日の小学生にはどのような遊びが流行っているのかの現状を調べるために設定した項目である。そして、意見が多かった遊びを「みんな遊び」などで取り入れていけばさらに外遊びの推進が図れると考えた。

質問(16)、(17)は、「みんな遊び」の現状と、児童は「みんな遊び」に対してどう思っているのかを調べるために設定した項目である。「みんな遊び」に対しての不満も聞き、そこからどう改善していけばさらに良い「みんな遊び」になるであろうかを考えるための項目である。

なお、質問(1)、(2)、(4)、(5)、(8)、(10)、(11)、(12)、(13)、(16)は選択肢での回答とし、質問(3)、(6)、(7)、(9)、(14)、(15)、(17)は記述での回答とし考察のために用いた。また、記述での回答内容で複数の内容にわたるものはそれぞれ件数として加算した。分類は児童の記述からキーワードとなる単語をもとに行い、最も共通する項目名を付けた。分析は選択肢、記述での回答が混在するため単純統計で行った。使用ソフトにはマイクロソフト・オフィス・エクセルを用いた。

Ⅲ. 結果

1. 選択肢回答の結果

表1は学年別の選択肢回答の質問項目に対する回答数と有効回答数に対する割合を示したものである。

質問(1)の外遊びの好き嫌いの項目では全ての学年で①好きと回答した児童が多かった。しかし、回答数を割合でみると1年生の84.1%から6年生の47.8%へと学年が上がるにつれ低下する傾向が認められた。

質問(2)の体を動かすことの好き嫌いの項目でも全ての学年で①好きと回答した児童が多かった(45.9～67.5%)が、学年による一定の傾向は認められなかった。

質問(4)の外遊びの時間は3年生では④30分以下が一番多く、4、5、6年生では③30分から1時間という回答が最も多かった。しかし、いずれの学年でも②1時間から2時間よりも①2時間以上が多く2峰性の分布を示した。

質問(5)の外遊びか、中遊びかのどちらが好きかの項目では全ての学年で①外遊びの方が高い割合を示した。しかし、2、5、6年生では両者の差の少ない傾向が認められた。

質問(8)の休み時間に外で遊ぶのが好きか嫌いかの項目でも①外で遊ぶのが好きとの回答が最も多かったが、5、6年生では52.5、41.8%と他の学年に比して低い傾向が認められた。

質問(10)の朝休みに外で遊んでいる頻度については④まったく遊ばないが1年生(19.4%)を除き一番高い割合を示した。

質問(11)の中間休みに外で遊んでいる頻度については全ての学年で①ほぼ毎日との回答が最も多かったが、6年生では34.8%と他の学年に比して低いことが認められた。

質問(12)の昼休みに外で遊んでいる頻度についても質問(11)と同様に全ての学年で①ほぼ毎日との回答が最も多かったが、6年生では37.0%と他の学年に比して低いことが認められた。

質問(13)の休み時間によく遊んでいる場所についてはいずれの学年も大グラウンドが最も多かったが、特に4年生では83.6%と他の学年に比して多いことが認められた。

質問(16)のみんな遊びが楽しいかの項目は学年による差がみられ、2～4年生では①楽しいとする回答が最も多くみられ、特に4年生では63.5%と高い割合を示した。しかし、1年生と5年生では⑤していない(52.5、40.0%)、6年生では②まあまあ楽しい(44.0%)とする回答が多く認められた。

表 1. 学年別の選択肢回答の質問項目に対する回答数

質問番号	学年	回答数 人(回答数/有効回答数 %)						有効回答数
		①	②	③	④	⑤	未回答・その他	
(1)	1年	53(84.1)	7(11.1)	2(3.1)	1(1.6)		0	63
	2年	79(69.3)	25(21.9)	8(7.0)	2(1.8)		0	114
	3年	66(61.7)	29(27.1)	8(7.5)	4(3.7)		0	107
	4年	45(60.0)	24(32.0)	5(6.7)	1(1.3)		0	75
	5年	34(54.8)	23(37.1)	2(3.2)	3(4.8)		0	62
	6年	44(47.8)	41(44.6)	5(5.4)	2(2.2)		0	92
(2)	1年	35(55.6)	18(28.6)	8(12.7)	2(3.2)		0	63
	2年	77(67.5)	29(25.4)	7(6.1)	1(0.9)		0	114
	3年	67(62.6)	31(29.0)	5(4.7)	4(3.7)		0	107
	4年	42(56.0)	28(37.3)	3(4.0)	2(2.7)		0	75
	5年	28(45.9)	25(41.0)	4(6.6)	4(6.6)		1	61
	6年	54(58.7)	27(29.3)	8(8.7)	3(3.3)		0	92
(4)	3年	18(17.1)	16(15.2)	29(27.6)	34(32.4)	8(7.6)	2	105
	4年	17(23.0)	13(17.6)	23(31.1)	18(24.3)	3(4.1)	1	74
	5年	12(19.6)	9(14.8)	21(34.4)	12(19.7)	7(11.5)	1	61
	6年	23(25.5)	17(18.9)	25(27.8)	18(20.0)	7(7.8)	2	90
(5)	1年	48(77.4)	14(22.6)				1	62
	2年	64(56.1)	50(43.9)				0	114
	3年	79(73.8)	28(26.2)				0	107
	4年	58(77.3)	17(22.7)				0	75
	5年	36(58.1)	26(41.9)				0	62
	6年	48(52.2)	44(47.8)				0	92
(8)	1年	49(80.3)	8(13.1)	3(4.9)	1(1.6)		2	61
	2年	65(58.0)	34(30.4)	5(4.5)	8(7.1)		2	112
	3年	58(54.2)	32(29.9)	12(11.2)	5(4.7)		0	107
	4年	47(62.7)	21(28.0)	6(8.0)	1(1.3)		0	75
	5年	32(52.5)	21(34.4)	2(3.3)	6(9.8)		1	61
	6年	38(41.8)	32(35.2)	17(18.7)	4(4.4)		1	91
(10)	1年	40(64.5)	5(8.1)	5(8.1)	12(19.4)		1	62
	2年	24(21.4)	20(17.9)	20(17.9)	48(42.9)		2	112
	3年	16(15.4)	16(15.4)	15(14.4)	57(54.8)		3	104
	4年	13(17.6)	11(14.9)	16(21.6)	34(45.9)		1	74
	5年	19(31.1)	7(11.5)	8(13.1)	27(44.3)		1	61
	6年	26(28.3)	7(7.6)	21(22.8)	38(41.3)		0	92
(11)	1年	39(62.9)	9(14.5)	3(4.8)	11(17.7)		1	62
	2年	67(59.8)	19(17.0)	18(16.1)	8(7.1)		2	112
	3年	54(51.4)	16(15.2)	26(24.8)	9(8.6)		2	105
	4年	50(67.6)	15(20.3)	4(5.4)	5(6.8)		1	74
	5年	36(59.0)	10(16.4)	11(18.0)	4(6.6)		1	61
	6年	32(34.8)	11(12.0)	26(28.3)	23(25.0)		0	92
(12)	1年	43(69.4)	6(9.7)	4(6.5)	9(14.5)		1	62
	2年	56(51.4)	26(23.9)	19(17.4)	8(7.3)		5	109
	3年	54(51.4)	15(14.3)	23(21.9)	13(12.4)		2	105
	4年	46(61.3)	15(20.0)	11(14.7)	3(4.0)		0	75
	5年	33(54.1)	11(18.0)	11(18.0)	6(9.8)		1	61
	6年	34(37.0)	3(3.3)	33(35.9)	22(23.9)		0	92
(13)	1年	20(33.3)	17(28.3)	3(5.0)	10(16.7)	10(16.7)	3	60
	2年	69(63.3)	4(3.7)	4(3.7)	21(19.3)	11(10.1)	5	109
	3年	48(48.0)	11(11.0)	7(7.0)	26(26.0)	8(8.0)	7	100
	4年	61(83.6)	0(0.0)	1(1.4)	11(15.1)	0(0.0)	2	73
	5年	36(62.1)	7(12.1)	2(3.4)	12(20.7)	1(1.7)	4	58
	6年	44(50.6)	2(2.3)	1(1.2)	40(46.0)	0(0.0)	5	87
(16)	1年	26(44.1)	2(3.4)	0(0.0)	0(0.0)	31(52.5)	4	59
	2年	54(49.1)	34(30.9)	5(4.5)	5(4.5)	12(10.9)	4	110
	3年	60(56.1)	32(29.9)	10(9.3)	2(1.9)	3(2.8)	0	107
	4年	47(63.5)	23(31.1)	2(2.7)	1(1.4)	1(1.4)	1	74
	5年	11(18.3)	12(20.0)	10(16.7)	3(5.0)	24(40.0)	2	60
	6年	36(39.6)	40(44.0)	7(7.7)	6(6.6)	2(2.2)	1	91

Ⅳ. 考察

1. 全学年の合計回答傾向から見えること

表2は選択肢で回答する質問に対する回答数の全学年の合計を示したものである。表1の学年別の回答数を全学年で合計し示した（質問(4)については低学年では設定していないので合計数より省いている）。回答は、外遊びをよくしていたり体を動かすことが好きな児童が①側に寄る形で示した。

（1）外遊び、運動の好・嫌について

質問(1)の外遊びの好き嫌いの項目で、①好き、あるいは②まあまあ好きと回答した児童が、470 / 513人（91.6%）であった。

質問(2)の体を動かすことの好き嫌いの項目で、①好き、あるいは②まあまあ好きと回答した児童が、461 / 512人（90.0%）であった。

ここから、多くの児童が基本的には外遊びや体を動かすことが好きであることが明らかになった。

（2）外遊びの時間について

質問(4)の一日の外遊びの時間の項目で、③～⑤の1時間未満と回答した児童が205 / 330人（62.1%）と多くいた。アンケートは7月に実施したため、学校生活での活動が16時に終わったとしても日没の19時頃までは3時間程度ある。また、学校での休み時間もある。それにもかかわらず、1日に1時間未満しか外遊びをしていないという回答が多くみられたことは運動時間の少ない児童が多くいることを示すと考えられた。また、大阪市で行われた児童の平日の外遊びの平均時間の調査²⁾では、昭和59年7月では、全体平均が93分、平成19年7月では、全体平均が87分なので、それらと比べても今回アンケート対象とした学校の児童は外遊びの時間が少ないことが認められた。

全国学力・学習状況調査⁶⁾によると、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしている児童の全国平均は、平成20年度は47.5%であるのに対して、平成26年度は54.4%（p53）へと増加しており、通塾率の全国平均は、平成19年度は45.3%であるのに対して、平成26年度

表2. 選択肢で回答する質問に対する回答数（人）

回答番号 質問番号	①	②	③	④	⑤	未回答	有効回答数
(1)	321	149	30	13			513
(2)	303	158	35	16		1	512
(4)	70	55	98	82	25	6	330
(5)	333	179				1	512
(8)	289	148	45	25		6	507
(10)	138	66	85	216		8	505
(11)	278	80	88	60		7	506
(12)	266	76	101	61		9	504
(16)	234	143	34	17	73	12	501

は48.3%（p50）へと増加していた。

これらのことから、外遊びの時間が少ない原因はテレビゲーム、携帯電話などの機器の普及などによって室内で遊ぶことが多くなったり、通塾率の増加が外で遊ぶ時間の減ったことに関係していると予想された。

対策として、テレビゲームや携帯電話などの使用制限が考えられた。教師と家庭とが連携を取り、家庭でしっかりとルールを決めることが必要であると考えられた。

（3）外遊びの好・嫌について

質問(5)の中か外のどちらで遊ぶのが好きかという項目では、①外と回答した児童が333 / 512人（65.0%）であった。

（4）休み時間の外遊びの好・嫌について

質問(8)の休み時間での外遊びの好き嫌いの項目では、①好き、または、②まあまあ好きと回答した児童が、437 / 507人（86.2%）であった。質問(1)、(2)と比べると、少し割合が低くなっていることは、休み時間という限られた時間であることに原因があるのだろうと推測された。

（5）休み時間に外で遊ぶ頻度について

質問(10)の朝休みに外で遊ぶ頻度の項目で、④全く遊ばないと回答した児童が216 / 505人（42.8%）であったのに対し、質問(11)の中間休みに外で遊ぶ頻度の項目では、①ほぼ毎日と回答した児童が278 / 506人（54.9%）、質問(12)の昼休みに外で遊ぶ頻度の項目では、①ほぼ毎日と回答した児童が266 / 504人（52.8%）であった。

質問(10)、(11)、(12)から、朝休みに外遊びをする児童が圧倒的に少ない傾向が認められた。原因としては朝学校に来るのが遅いことが関係すると予想された。家庭での生活状況も関係するので解決は難しいと考えられるが、対策としては朝早く学校にくるための声掛け、教師も遊びに積極的に参加する努力をするなど、児童が朝学校に来て遊ぶことを楽しみとするための学校を挙げての対策が外遊びのきっかけづくりに大切ではないかと推察された。

（6）「みんな遊び」の好・嫌について

質問(16)の「みんな遊び」は楽しいかという項目で、①楽しい、または、②まあまあ楽しいと回答した児童が377 / 501人（75.2%）であった。表1に示したように1年生、5年生では行われていないクラスが認められている中で実施したクラス、学年では多くの児童が「みんな遊び」を楽しんでいることが明らかになった。このことは「みんな遊び」の導入が休み時間の運動への参加に有効であることが示唆された。

2. 学年別（低・中・高学年別を含む）傾向から見えること

次いで、低・中・高学年あるいは学年別にみた場合に特徴のみられた項目について述べて行く。

（1）遊び場所の嗜好（外、中）について

表3は外か中のどちらで遊ぶのが好きかについての質問（質問(5)）に対する回答数を低・中・高学年別に示したものである。

①の外で遊ぶ方が好きと回答した児童は、中学年が137 / 182人（75.3%）と一番多く、高学年が84 / 154人（54.5%）と一番少なかった。

子どもの携帯電話端末の所持率⁷⁾をみると、携帯電話の所持率は、低学年が約29.7%、中学年が約40.0%、高学年が約47.6%であった。学年が上がるにつれて携帯電話の所持率が高くなっていることが報告されている。調査校においても同様の傾向が予想され、低・中学年と高学年とでは結果に差が出た要因の1つと考えられた。また、表1 質問(16)にみられるように中学年ではみんな遊びが積極的に行われていることも外遊びの好きな児童が多くなった要因であると考えられた。

2008年の文部科学省の「子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告」⁸⁾からは、通塾率は、1年が14.7%、3年が20.2%、5年が33.6%、6年が35.6%と、学年が上がるにつれて高くなっていること

が認められた。このことから、高学年になるにつれて塾に通うことも多くなり、遊び時間が減少する原因の1つだと考えられた。

本研究において習い事に関する調査は行っていない。今後、習い事（スポーツを含め）に関する項目も追加する必要があると考えられた。また、スポーツクラブへの所属が高学年での外遊びの時間の二峰性の結果を生じさせた要因とも考えられた。

（2）休み時間における外遊びの好・嫌について

表1 質問(8)の結果より休み時間での外遊びの①好き、あるいは②まあまあ好きと回答した児童は、1年生と4年生がそれぞれ、57 / 61人（93.4%）、68 / 75人（90.7%）、6年生が70 / 91人（76.9%）であった。1年生、4年生と6年生の間に大きな差が見られた。質問(1)の外遊びの好き嫌いの項目と比べると、6年生の割合が低くなっていた。調査校においては6年生が外遊びは好きであるが、「休み時間」に外遊びをしたくない原因を考え改善する必要があると考えられた。

（3）休み時間における外遊びの頻度について

1) 朝休み

表1 質問(10)の朝休みに外で遊ぶ頻度の質問に対する回答数を学年別にみると、①ほぼ毎日と回答した児童は、1年生が40 / 62人（64.5%）、3年生が16 / 104人（15.4%）であった。一方、④まったく遊ばないと回答した児童は、1年生が12 / 62人（19.4%）、3年生が57 / 104人（54.8%）であった。学年別で見ると、1年生と3年生の間に最も大きな差が認められた。1年生が①ほぼ毎日と答えた児童が多く、3年生が④まったく遊ばないと回答した児童が多いことについては学年の指導方針、教員の構成メンバーなど細かい調査が必要であると考えられた。

表3. 中か外のどちらで遊ぶのが好きかの質問に対する回答数（人）

回答番号 質問番号	学 年	①	②	未回答	有効回答数
(5)	低学年	112	64	1	176
	中学年	137	45	0	182
	高学年	84	70	0	154

2) 中間休み

表1 質問(11)の中間休みに外で遊ぶ頻度の質問に対する回答数を学年別にみると、①ほぼ毎日と回答した児童は、4年生が最も多く50 / 74人 (67.6%) であったのに対し6年生が32 / 92人 (34.8%) と他の学年に比べ少なかった。一方、③1週間に1回、あるいは④全く遊ばないと回答した児童は、4年生が9 / 74人 (12.2%) で最も少なく、6年生が49 / 92人 (53.3%) で最も多かった。中間休みに4年生が毎日遊ぶ児童が多い原因については、教員の遊びへの参加率が関係していると考えられた。アンケート実施校の4年生の担任の教員は、よく児童に混ざって一緒になって遊んでいる状況がみられた。教師が児童たちの遊びに積極的に参加することで、児童の外遊びも推進される可能性のあることが考えられた。また、2013年の時点で子どもの体力・運動能力は、昭和60年頃と比較すると小学生では低い水準になっている⁹⁾。外遊びの推進や体育の授業の充実などで、体力の向上を図る必要があると考えられた。

3) 昼休み

表1 質問(12)の昼休みに外で遊ぶ頻度の質問に対する回答数を見ると、①ほぼ毎日と回答した児童は、1年生が最も多く43 / 62人 (69.4%) であったのに対し、6年生が34 / 92人 (37.0%) と最も少なかった。一方、③1週間に1回、あるいは④全く遊ばないと回答した児童は、1年生が13 / 62人 (21.0%) で最も少なく、6年生が55 / 92人 (59.8%) で最も多かった。昼休みに1年生が毎日遊ぶ児童が多く、昼休みに6年生は昼休みにおいても外で遊ぶ児童の少ないことが認められた。

(4) 「みんな遊び」について

表1 質問(16)の「みんな遊び」の楽しさについての質問に対する回答数を見ると、①楽しい、あるいは②まあまあ楽しいと回答した児童は、4年生は70 / 74人 (94.6%)、5年生は23 / 60人 (38.3%) であった。⑤していないと回答した児童は、4年生は1 / 74人 (1.4%)、5年生は24 / 60人 (40.0%)、1年生は31 / 59人 (52.5%) であった。また、1年生で③、④の回答はなく、「みんな遊び」を行っている児童はすべて、①楽しい、あるいは②まあまあ楽しいと回答していた。学年別でみると一定の傾向は認められなかったが、「みんな遊び」をしていない学年もあった。4年生が「みんな遊び」を楽しいと回答した児童が多い原因の1つとして、「みんな遊び」の教諭の参加率が関係していると考えられた。「みんな遊び」や体育の授業は児童と教師が直接触れ合う重要な時間であると考えられる。教員が普段から児童たちと一緒に遊び、「みんな遊び」にも教師が混ざること、児童は体を動かすことが楽しいと感じられるだろうと考えられた。

藤本¹⁰⁾ は、仲間を求めるのは基本的欲求であり、はじめから仲間なしでは、人間は人間として健全に成長することはできないのではないかと述べ、さらに、仲間集団の役割について以下のように述べている。

- ①自立、あるいは独立に対してもっている仲間集団の役割の大きさが分かる。
- ②社会的ルール、個人の果たすべき役割や責任の学習。
- ③対等な立場での付き合い方が学べる。
- ④自発性や主体性を学び、自治や自律の能力の獲得。

このように、仲間集団の重要さや役割は多くあるが、仲間とうまく遊ぶことができなかったり友達付き合いがうまくいかない子どもたちもいることが認められた。

また、今井¹¹⁾は、仲間とは遊べない子の特徴として以下のように述べている。

- ①近隣に同年配の子どもがいないとか、ひとりっ子は、主に家庭の中で両親や祖父母を相手に過ごして、友達との遊びをほとんど経験し得なかったため、自分から仲間に入ろうとしない。
- ②家庭内で大事に育てられた子どもは、自分の欲求がたいい通してもらえるので、欲求不満や葛藤への耐性が養われにくく、自己統制力も弱いいため、乱暴とか、意地悪とか、自分勝手であるために、遊び仲間に入れてもらえない。
- ③愛情のない家庭に育ち、親の拒否的な対人態度を学習した結果、乱暴とか意地悪などの攻撃的な行動を身に着けてしまった。

本研究の結果からは、このような仲間と遊べない子に対して学級で「みんな遊び」を設定することが有効であると考えられた。

(5) 外遊び・運動嫌いの原因について

表4は質問(2)の外遊びの好き嫌い、または体を動かすことの好き嫌いについての質問で、③あまり好きではない、あるいは④好きではないと回答した児童に対して、どうして好きではないのかという質問（質問(3)）への回答とその回答数の全学年の合計数を示したものである。

体を動かすことや外で遊ぶことが好きではない理由は、「疲れる」という理由が一番多かった。「疲れる」は、体育の授業で十分な体力の向上が行われておらず改善の必要性を示すものと考えられた。「暑い（汗をかく）」は、外遊びに慣れていないことによると考えられた。タオル、

着替え等も含めた生活指導も必要であると考えられた。また、外で遊ぶ頻度を増やし慣れさせることで改善できると考えられた。「運動が苦手（バカにされる）」は、苦手な運動を克服させたり、運動が苦手な児童をバカにしないよう指導をすることの必要性が示唆された。「中での遊びの方が楽しい」は、楽しい外遊びや遊具を提示や、教員自身が一緒に外遊びを行うことで改善できると考えられた。「怪我をする」については、児童に対して十分な安全教育を行う必要のあら

表4. 体を動かすことや外で遊ぶことが好きではない理由とその回答件数（件）

疲れる	22
暑い（汗をかく）	15
運動が苦手（バカにされる）	15
中での遊びの方が楽しい	8
怪我をする	6
体が弱い	2
その他	3
合 計	71

ることが示唆された。なお、学年別で見た場合には一定の傾向は認められなかった。

(6) 中遊びが好きな理由について

表5は質問(5)中か外のどちらで遊ぶのが好きかの質問に対して、中遊びが好きと回答した児童の理由（質問(6)）を低・中・高学年別ならびに合計を件数で示したものである。

合計件数を見ると、中遊びが好きな児童は、中学年が45件と低学年の68件、高学年の70件と比べ一番少ないことが認められた。理由の合計数を見ると、「外は夏は暑い冬は寒い」という環境面での理由が多かった。低・中・高学年別で見ると、「友達と遊べる」という回答は低

学年で多かった。低学年は、友達が中で遊んでいるから自分も中で遊ぶという考え方の児童が多いと考えられた。また、「ゲーム、テレビ、パソコンができる」という回答は高学年で多かった。学年が上がるにつれてゲームやインターネットや携帯電話などをよく使うようになり、外で遊ぶより画面に向かうことの方が多い児童が増えていると考えられた。このことは前述のテレビゲームや携帯電話などの使用制限の必要性を裏付けるものと考えられた。

表 5. 中遊びが好きな理由とその回答数（件）

	低学年	中学年	高学年	合 計
外は夏は暑いし冬は寒い	8	13	12	33
いろんな遊び、遊ぶものがある	17	1	10	28
ゲーム、テレビ、パソコンができる	4	3	14	21
読書が好き	7	6	5	18
楽しい	7	3	6	16
ゆっくりできて静かで落ち着く	5	8	2	15
友達と遊べる	7	0	2	9
お絵かきができる	5	2	2	9
怪我をしない	0	2	1	3
その他・未回答	8	7	16	31
合 計	68	45	70	183

（7）外遊びが好きな理由について

表 6 は質問(5)の中か外のどちらで遊ぶのが好きかの質問に対して、外遊びが好きと回答した児童の理由（質問(6)）を低・中・高学年別ならびに合計を件数で示したものである。

合計件数を見ると、外遊びが好きな児童は、中学年が147件と一番多く高学年で84件と少ない傾向が認められた。理由の合計数を見ると、「いろんな遊びがある」という回答が64件と最も多く次いで「楽しい」（45件）、「広い」（43件）が多かった。

低・中・高学年別で見ると、低学年では「いろんな遊びがある」（22件）、「楽しい」（21件）、

表 6. 外遊びが好きな理由とその回答数（件）

	低学年	中学年	高学年	合 計
いろんな遊びがある	22	26	16	64
楽しい	21	12	12	45
広い	7	28	8	43
友達と遊べる（いろんな人と友達になれる）	16	12	6	34
いろんな遊ぶものがある（遊具）	10	18	1	29
思い切り遊べて気持ちがいい	4	19	4	27
体を動かすのが好き	1	4	21	26
走れる	5	15	0	20
サッカーができるから	7	2	7	16
あったかい、すずしい	6	1	3	10
運動になる、体力がつく	0	6	3	9
その他	13	4	3	20
合 計	112	147	84	343

「友達と遊べる」(16件)という回答が多かった。しかし、「楽しい」(中学年、高学年ともに12件)、「友達と遊べる」(中学年12件、高学年6件)は中学年で減少する傾向が認められた。中学年では「広い」(28件)、「いろんな遊びがある」(26件)、「思い切り遊べて気持ちがいい」(19件)が多く、次いで「いろんな遊ぶものがある(遊具)」(18件)、「走れる」(15件)という回答は中学年が多く、低学年に比べ遊びが複雑になっていく傾向が認められた。高学年では他の学年では少数であった「体を動かすのが好き」という回答が最も多く(26件)特定の児童が積極的に活動している傾向が認められた。次いで「いろんな遊びがある」(16件)と続いた。

(8) 一番楽しかった外遊びについて

表7は今までで一番楽しかった外遊びは何かという質問(質問(7))に対する回答数を学年別ならびに全学年の合計を件数で示したものである。

種目別合計数を見ると、児童が今までで一番楽しかった外遊びの上位3つは、「サッカー」(83件)、「ドッジボール」(41件)、「おにごっこ」(41件)であった。「サッカー」が16.2%で最も多かった。これには6年生が27人と多かったことが影響しており、本アンケートでは明らかではないが学校外でのサッカークラブで活動していることが関係していると予想された。事実、「学校外教育活動に関する調査 2013」¹²⁾では、子どもが習っている人気スポーツ活動は、1位がスイミングで2位がサッカーであった。「ドッジボール」、「おにごっこ」は純粹に外遊びとして行われていると考えられ、小学校での外遊びでも有効であると考えられた。

学年別でみると、「サッカー」、「野球」と回答したのは6年生(27件、13件)が多かった。これは、先にも述べたが学校外での習い事が関係していると考えられた。一方、低学年では「お

表7. 今まで一番楽しかった外遊びとその回答数(件)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
サッカー	2	15	15	9	15	27	83
ドッジボール	1	5	8	16	2	9	41
野球	0	2	2	5	4	13	26
バスケットボール	0	0	2	4	9	4	19
その他のボール遊び系	0	3	8	5	1	5	22
おにごっこ	5	15	9	4	0	8	41
けいドロ	0	2	14	5	0	13	34
ジャングルおに	0	1	1	9	14	4	29
こおりおに	0	1	2	7	0	1	11
その他のおにごっこ系	5	10	18	8	2	2	45
一輪車	1	13	5	2	2	6	29
ブランコ	6	7	4	0	3	1	21
フリスビー	1	2	10	0	1	2	16
ローラーシューズ、スケートボード	0	6	3	0	1	0	10
鉄棒	1	8	0	0	0	0	9
大なわ	2	3	0	1	1	1	8
虫捕り	1	6	0	0	0	0	7
その他	6	14	16	9	4	12	61
未回答	32	8	1	1	9	10	61
有効回答数	31	113	117	84	59	108	512

にごっこ」(20件)、「ブランコ」(13件)、「鉄棒」(9件)、「虫捕り」(7件)に多く回答がみられた。「鉄棒」に関しては、中学年以降では回答はみられなかった。これには「鉄棒」の遊び方の指導が十分に行われていない可能性が考えられた。

表中に太線で示したカテゴリー別で見ると、「ボール遊び系」が191 / 512人 (37.3%)、「おにごっこ系」の遊びが160 / 512人 (31.3%)、「遊具を使った遊び」が93 / 512人 (18.2%)であった。「ボール遊び系」が楽しかったと回答した児童が多かったことから「ボール遊び系」遊びを取り入れることの有効性を示す一方、実施する場所の確保、安全の確保を学校全体で取り組む必要のあることが示唆された。

(9) 休み時間における外遊び嫌いの理由について

表8は質問(8)の休み時間での外遊びの好き嫌いの質問で、③あまり好きではない、あるいは④好きではないと回答した児童に対して、どうして好きではないのかという質問(質問(9))への回答とその回答数の合計を示したものである。

質問(3)の体を動かすことや外で遊ぶことが好きではない理由と同様、「暑い(汗をかく)」(15件)、「疲れる」(8件)という回答が多かった。質問(3)と異なる点は、「読書や自由帳が好き」

表8. 休み時間に外で遊ぶのが好きではない理由とその回答数(人)

暑い(汗をかく)	15
疲れる	8
中のほうが遊ぶものも多いから楽しい	8
読書や自由帳が好き	6
運動が苦手	6
人が多い	5
外で遊ぶ友達がいない	3
ゆっくりしたい	2
授業に遅れる	2
ボールが飛んできて怖い	2
外に出るのが面倒	2
具合を悪くする	1
怪我をする	1
野球ができない	1
その他	2
未回答	6
有効回答数	64

(6件)、「人が多い」(5件)、「ゆっくりしたい」(2件)、「授業に遅れる」(2件)、「ボールが飛んできて怖い」(2件)などの回答がみられたことである。授業で疲れているのか、休み時間は、人込みのないところでゆっくりしたり、読書や自由帳の方が好きな児童もいることが認められた。「授業に遅れる」ことに対しては、予鈴を鳴らしたり、教員が声掛けをすることで改善されると考えられた。「ボールが飛んできて怖い」ことに対しては、遊ぶ際の注意を児童に促したり、ボールの使い方のルールを決めるなどで改善する必要があると考えられた。なお、学年別で見た場合には一定の傾向は認められなかった。

(10) 休み時間の遊び場所について

表9は休み時間に一番よく遊んでいる場所についての質問(質問(13))に対しての回答とその回答数を学年別ならびに全学年の合計数で示したものである。

場所別合計数をみると、外が337 / 510人 (66.0%)、中が150 / 510 (29.4%)であった。外のうち278 / 337人 (82.4%)が「大グラウンド」と回答した。ここから、外遊びをする児童の多くは大グラウンドで遊んでいるということが明らかになった。したがって、大グラウンド

の使用ルールを設定をする等の配慮が児童の安全確保のために必要であると考えられた。また、適切なルールが施されれば外で遊ぶ児童も増えるだろうと考えられた。学年別で見ると、「ピロティー」と回答したのは、低学年が多かった。ピロティーは広場ではあるが、廊下の一部であるため、走り回ると危険が伴うと考えられる。また、「教室（校舎内）」と回答したうち33.3%（40／120人）が6年生であった。

表9. 休み時間に一番よく遊んでいる場所についての回答とその回答数（人）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
①大グラウンド	20	69	48	61	36	44	278
②小グラウンド	17	4	11	0	7	2	41
③中庭	3	4	7	1	2	1	18
④教室（校舎内）	10	21	26	11	12	40	120
⑤ピロティー	10	11	8	0	1	0	30
その他	2	4	7	2	3	5	23
未回答	1	1	0	0	1	0	3
有効回答数	62	113	107	75	61	92	510

(11) 休み時間に遊ぶ場所で困っていることについて

表10は休み時間に遊ぶ場所について困っていることについての質問（質問(14)）に対する回答とその回答数の合計を示したものである。なお、未回答が多かったため有効回答数のみを示した。

項目別合計数をみると、「グラウンドが狭い」という回答が10人と一番多かった。「ボールが飛んでくるから怖い」（8人）、「木が危ない」（4人）、「ジャングルジムに人が多い」（3人）と続いた。「ボールが飛んでくるから怖い」、「ジャングルジムに人が多い」などは、ルールを決めたり、割り当てを決めることで対応する必要があると考えられた。「グラウンドが狭い」、「サッカーゴール、バスケットゴールが少ない」などは、学校の設備上の問題であるため、すぐに設置したり、手に入れることは難しいだろうと考えられた。「木が危ない」、「鉄棒の前の溝が危ない」などは、対応可能な安全の問題であり学校として対応の必要な事項であると考えられた。また、質問(3)の体を動かすことや外で遊ぶことが好きではない理由に対して、「怪我をするから」と回答した児童がいた。ここからも外遊びが

表10. 休み時間に遊ぶ場所について困っていることについての回答とその回答数（人）

ボールが飛んでくるから怖い	8
ジャングルジムに人が多い	3
図書の時間が決まっている	2
バスケットゴールも割り当てがほしい	1
グラウンドが狭い	10
サッカーゴール、バスケットゴールが少ない	2
ブランコが少ない	2
バスケットボールが小さい、ぼろぼろ	2
小グラウンドからはチャイムが聞こえづらい	1
木が危ない	4
サッカーゴールの網が破れている	2
鉄棒の前の溝が危ない	2
フェンスが低いからボールがよく超える	2
ひもがひっかかる	2
砂ぼこりがきつい	2
草のトゲが痛い	1
その他	3
合 計	49

あまり好きではない原因として危険を感じているということが考えられた。学習指導要領^{1-②}の体育の目標にも「健康・安全についての理解」が述べられておりすべての学年で目標の一つとされている。また、子どもの事故死は死因の中で二位（5～9歳）、三位（10～14歳）と依然高い水準で推移している¹³⁾という報告もあることから、安全教育は重要であると考えられた。対策として、日頃の安全チェック、教員による子どもに対する安全指導などが考えられた。なお、学年別で見た場合には一定の傾向は認められなかった。

(12) 休み時間の遊びの人気

表11は休み時間に一番よくしている遊びについての質問（質問15）に対する回答とその回答数を学年別ならびに全学年の合計数で示したものである。

種目別合計数をみると、休み時間に一番よくしている遊びの上位3つは、「サッカー」（75件）、「おにごっこ」（53件）、「ドッジボール」（34件）であり、表11の今までで一番楽しかった外遊びと同じであった。「サッカー」が15.9%と小学校の休み時間にも最も行われていた。しかし、今までで一番楽しかった外遊びで同数であった「おにごっこ」と「ドッジボール」では「おにごっこ」が多くなり、用具を必要としない遊びが休み時間には行いやすいことが認められた。

カテゴリー別で見ると、ボール系の遊びが153 / 473人（32.3%）、おにごっこ系の遊びが116 / 473人（24.5%）、遊具を使った遊びが58 / 473人（12.2%）、中遊びが59 / 473人（12.4%）であった。また、「フリスビー」、「ジャングルおに」、「一輪車」などの遊具を使った遊びの回答は、97 / 473人（20.5%）であった。遊具は、外遊びの推進に関係があると考えられた。しかし、費用がかかってしまったり、置く場所がないなどの理由から、学校に遊具がすぐ設置されたりすぐ手に入れることは難しいだろうと考えられる。

小林¹⁴⁾は1977年の時点で、子どもの生活の大半が遊びで占められている現状で、狭い遊び場、不足している遊び場で彼らの持っている能力を十二分に発揮させるためには、人工的につくられた素材であろうとも、遊具が効果的であろうと述べている。

渡辺¹⁵⁾は、ある小学校では、遊具がずらりと設置されているにも関わらず、運動場の隅にある土がうず高く盛り上げてあるだけのもので子どもたちが楽しそうに遊んでいるのを見たと言っている。このような「創作遊具」を増やせば、費用の心配もないし、置く場所の心配もしなくてもよいと考えられた。

また、板野¹⁶⁾は「いつも一定の場所に、特定の物があると子どもは安心する。どこに何があるのか、分かっている必要に応じて取り出したり、片づけたりすることが自信をもってできる。また、物を取り出しやすいうように置く工夫がされていたり、それをどう使えばよいかが分かれば、子どもは安心して使ったり遊んだりする。」と述べている。このように、遊具や用具の置き場所も重要であると考えられた。常に同じ場所に置いておき、取り出しやすいうように工夫をするなど、安心できる物的環境をつくると良いと考えられた。

学年別で見ると、「サッカー」と答えたのは6年生が47.8%と最も多かった。これも、質問(7)の今までで一番楽しかった外遊びと同様、習い事が関係していると考えられた。また、「中遊び」では全ての項目で6年生が最も多かった。これは、質問(13)の休み時間に一番よく遊んでいる場所について「教室（校舎内）」と回答したのが6年生が一番多かったことが関係していると

表11. 休み時間に一番よくしている遊びについての回答とその回答数（件）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
サッカー	6	5	12	8	11	33	75
ドッジボール	1	1	4	18	0	10	34
バスケットボール	0	0	2	1	10	2	15
キックベース	0	0	0	9	0	0	9
その他とボール系	0	7	3	9	1	0	20
おにごっこ	8	17	15	11	1	1	53
ジャングルおに	0	0	0	7	20	0	27
フリスビーおに	5	2	5	0	0	0	12
けいドロ	0	0	7	0	0	0	7
その他のおにごっこ系	1	6	1	9	0	0	17
フリスビー	8	3	19	0	0	0	30
一輪車	1	7	5	0	3	2	18
鉄棒	3	6	1	0	0	0	10
自由帳	3	6	5	0	1	6	21
読書	1	6	2	1	3	6	19
話す	0	0	0	0	0	10	10
トランプ	0	0	0	0	0	9	9
虫捕り	2	8	6	0	0	1	17
学校探検	3	1	3	0	0	0	7
その他	17	11	9	9	7	10	63
未回答	4	28	13	4	8	8	65
有効回答数	59	86	99	82	57	90	473

考えられた。「キックベース」と回答したのは4年生しかいなかった。これは、このアンケートを行った小学校の4年生の観察から、クラスのリーダー的存在の1人がある日、「キックベースをしよう」と提案したため流行したのだと認められた。「けいドロ」と回答したのは3年生しかいなかった。これも同様の理由で流行していたのだと考えられた。時期や環境によって、流行りの遊びもあることが認められた。

(13) 「みんな遊び」が嫌いな理由について

表12は「みんな遊び」は楽しいかという質問に、③あまり楽しくない、あるいは④楽しくないと回答した児童に対して、どうして楽しくないのかという質問（質問17）への回答とその回答数の全学年の合計を件数で示したものである。

理由別合計数を見ると、「自由に遊べない」という回答が11件と一番多かった。ここから、決められた遊びではなくて自由に遊びたいと思っている児童がいることが明らかになった。「ルールを守れていない人がある」（9件）、「遊び係が勝手に遊びを決める」（4件）などは遊びのルールをしっかりと決めたり、教員が指導することなどで改善できると考えられた。

学年別でみると、1年生と4年生の回答者がそれぞれ0人、1人と少なかった。質問(8)の休み時間での外遊びの好き嫌いについての質問に対して、1年生と4年生は好きと回答した児童が多かった（表3）ことによると考えられた。ここから「みんな遊び」を「楽しい」と思っている児童は、休み時間に外で遊ぶことも好きだという傾向が認められた。したがって、「みんな遊び」を充実させれば休み時間に外で遊ぶ児童も増えるのではないかと考えられた。

表12. 「みんな遊び」が楽しくない理由についての回答とその回答数（件）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	有効回答数
自由に遊べない	0	3	2	0	4	2	11
人が多くてごちゃごちゃする	0	1	0	0	1	0	2
ルールを守れていない人がいる	0	2	6	0	0	1	9
遊び係が勝手に遊びを決める	0	0	1	0	2	4	7
よく喧嘩が起きる	0	0	2	0	0	1	3
ボールがまわってこない	0	0	0	0	2	0	2
その他	0	3	2	1	2	2	10
無回答	0	1	0	2	2	3	8
有効回答数	0	9	13	1	11	10	44

Ⅳ. まとめ

外遊びが減少した原因を調べるための基礎的調査として1つの小学校を対象にアンケートを行い、その結果からどのような働きかけをすれば児童の外遊びが推進されるのかを導き出そうとした。

本研究より得られた結果は以下のようにまとめられた。

- ・ テレビゲームや携帯電話などの使用制限をし、教員と家庭とが連携を取り、家庭でしっかりとルールを決めてもらう。
- ・ 朝早く学校に来るための声掛け、教員も参加した児童にとって魅力的な朝遊びの設定を行う。
- ・ 教員も遊びに積極的に参加する
- ・ 学級で「みんな遊び」を設定する。
- ・ 「みんな遊び」にも教員が混ざる。
- ・ 教員の指導力を上げ、苦手を克服させたり、運動が苦手な児童をバカにしないよう指導をする。
- ・ 遊ぶ際の注意を児童に促したり、ボールの使い方のルールを決め安全を確保する。
- ・ 日頃の安全チェック、児童に対しての教諭の安全指導を徹底する。
- ・ 遊びのルールをしっかりと決めさせる。

Ⅴ. 今後の課題

考察を進めていく中で、遊ぶ時間は、習い事、通塾、携帯電話の保持が関係する可能性のあることが示唆された。関係性を見つけるためにアンケートに習い事をどれぐらいしているか、携帯電話の保持率などの質問項目を設定することが必要と考えられた。

謝辞

本研究の遂行に際し貴重な時間を割いてアンケート調査にご協力いただいた、O町立O小学校の校長先生ならびに教員の皆様、また、全校児童に心から感謝と御礼を申し上げます。

文献

- 1) 文部科学省 (2008)「小学校学習指導要領」、①p14.、②p92-101.
- 2) 入口 豊、斉藤 覚、稲森あゆみ、市原悦子、屋麻戸浩 (2009)「大阪市における児童の屋外遊びの実態に関する経年比較研究 (I) —特に遊び時間と遊び場について—」、大阪教育大学紀要 第IV部門 57 (2)、p53-67.
- 3) 文部科学省 幼児期運動指針策定委員会 (2012)「幼児期運動指針 別紙1」、p1-3.
- 4) 文部科学省 中央教育審議会 (2002)「子どもの体力向上のための総合的な方策について (答申)」、p8-10.
- 5) 文部科学省 (2013)「平成25年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書」、p96.
- 6) 文部科学省 国立教育政策研究所 (2014)「平成26年度全国学力・学習状況調査のポイント」
- 7) MMD研究所 (2014)「2014年子供を持つ母親の携帯電話・スマートフォンに関する意識」
- 8) 文部科学省 (2008)「子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告」、p42.
- 9) 文部科学省 (2014)「平成25年度体力・運動能力調査報告書」
- 10) 藤本浩之輔 (1977)「子どもの遊び空間」、NHKブックス、p187-192.
- 11) 今井靖親 (1980)「ひとりでは遊べない子・仲間とは遊べない子」、『桂 広介 編「子どもの遊び (児童心理選集6)」、金子書房』、P222-224
- 12) ベネッセ教育総合研究所 (2013)「第2回 学校外教育活動に関する調査2013」、p7.
- 13) 厚生労働省 (2015)「平成26年人口動態統計月報年数 (概数) の概要」p36.
- 14) 小林芳文 (1977)「子どもの遊び その指導理論」、光生館p110.
- 15) 渡辺秀敏 (1980)「遊びと学習」、『桂 広介 編「子どもの遊び (児童心理選集6)」、金子書房』、p108.
- 16) 赤田 博 (1999)「子どもの求める環境」、『鯨坂二夫編 (1999)「子どもの遊びとその環境」、保育出版社』、p100.

付記1 (中・高学年用)

そとあそ
外遊びアンケート

みなさんの外遊びの様子を調べたいため、アンケートをします。
①～⑩、^{そとあそ}外遊びのどれかに○をし、() は自由に着いてください。

学年	年
----	---

(1) あなたは、外で遊ぶことが好きですか、
①好き ②まあまあ好き ③あまり好きではない ④好きではない

(2) あなたは、^{あそび}遊を動かすことが好きですか、
①好き ②まあまあ好き ③あまり好きではない ④好きではない

(3) (1) (2) で③④と答えた人に質問です。^{あそび}遊を動かすことや、外で遊ぶことが、なぜ好きではないのですか。

[]

(4) あなたは、1日にどのぐらい外で遊びますか。(近いと思う番号に○をつけましょう)
①全く遊ばない ②～30分 ③30分～1時間 ④1時間～2時間 ⑤2時間～

(5) あなたは、^{あそび}遊のどちらで遊ぶのが好きですか。
(6) それはなぜですか。

[]

(7) あなたが、今までで一番楽しかった外遊びは前ですか。

[]

・学校

(8) あなたは、休み時間に外で遊ぶことは好きですか。

①好き ②まあまあ好き ③あまり好きではない ④好きではない

(9) (8) で③④と答えた人に質問です。なぜ好きではないのですか。

[]

(10) あなたは、^{あそび}遊休みなどのぐらい外で遊んでいますか。(近いと思う番号に○をつけましょう)

①ほぼ毎日 ②2日に1回 ③1週間1回 ④全く遊ばない

(11) あなたは、^{あそび}遊休みなどのぐらい外で遊んでいますか。(近いと思う番号に○をつけましょう)

①ほぼ毎日 ②2日に1回 ③1週間1回 ④全く遊ばない

(12) あなたは、^{あそび}遊休みなどのぐらい外で遊んでいますか。(近いと思う番号に○をつけましょう)

①ほぼ毎日 ②2日に1回 ③1週間1回 ④全く遊ばない

(13) あなたは、^{あそび}遊休みなどに遊ぶ場所はどこですか。

①芝生グラウンド ②バググラウンド ③中庭 ④教室 (校舎内) ⑤ドローン
⑥その他 ()

(14) ^{あそび}遊休み時間に遊ぶ場所について聞いていることはありますか。

(15) あなたが、^{あそび}遊休み時間に遊ぶよくしている遊びは前ですか。

[]

(16) 「みんなが遊ぶ」は楽しいですか。

①楽しい ②まあまあ楽しい ③あまり楽しくない ④楽しくない ⑤していない

(17) (16) で③④と答えた人に質問です。その理由を教えてください。

[]

ご協力ありがとうございました。

そと
外あそびセンター

みなさんの外あそびのようすをしらべたいため、アンケートをします。
①～⑤、罫か罫のどちらかに○をし、() は、じゆうにぬいてください。

かくねん
ねん

(1) あなたは、外であそぶことが好きですか。
①好き ②まあまあ好き ③あまり好きではない ④好きではない

(2) あなたは、からだをうごかすことが好きですか。
①好き ②まあまあ好き ③あまり好きではない ④好きではない

(3) (1) (2) で④とこたえた人にしゅんです。からだをうごかすことや、外であそぶことが、なせ好きではないのですか。

[]

(4) あなたは、罫か罫のどちらであそぶのが好きですか。

(5) それはなぜですか。

[]

(6) あなたが、いままでいちばんたのしかった外あそびはなんですか。

[]

・がっこう

(7) あなたは、やすみじかに外であそぶことは好きですか。

①好き ②まあまあ好き ③あまり好きではない ④好きではない

(8) (7) で④とこたえた人にしゅんです。なぜ好きではないのですか。

[]

(9) あなたは、あそびやすみにどのぐらい外であそんでいますか。(ちがいとおもうばんごうに○をつけましょう)

①ほぼまいにち ②2日に1かい ③1しゅうかんに1かい ④まったくあそばない

(10) あなたは、ちゅうかんやすみにどのぐらい外であそんでいますか。(ちがいとおもうばんごうに○をつけましょう)

①ほぼまいにち ②2日に1かい ③1しゅうかんに1かい ④まったくあそばない

(11) あなたは、ひるやすみにどのぐらい外であそんでいますか。(ちがいとおもうばんごうに○をつけましょう)

①ほぼまいにち ②2日に1かい ③1しゅうかんに1かい ④まったくあそばない

(12) あなたは、やすみじかにいちばんよくあそんでいるばんはどこですか。

①まどろみ ②まどろみ ③なかにわ ④きょうしつ (こうしやのち)

⑤どろみ

⑥そのほか ()

(13) やすみじかにあそびしよについてこまっていることはありますか。

[]

(14) あなたは、やすみじかにいちばんよくしているあそびはなんですか。

[]

(15) 「みんなあそび」はたのしいですか。

①たのしい ②まあまあたのしい ③あまりたのしくない ④たのしくない

⑤していない

(16) (15) で④とこたえた人にしゅんです。なぜたのしくないのですか。

[]

ごきようりよくありがとうございました。